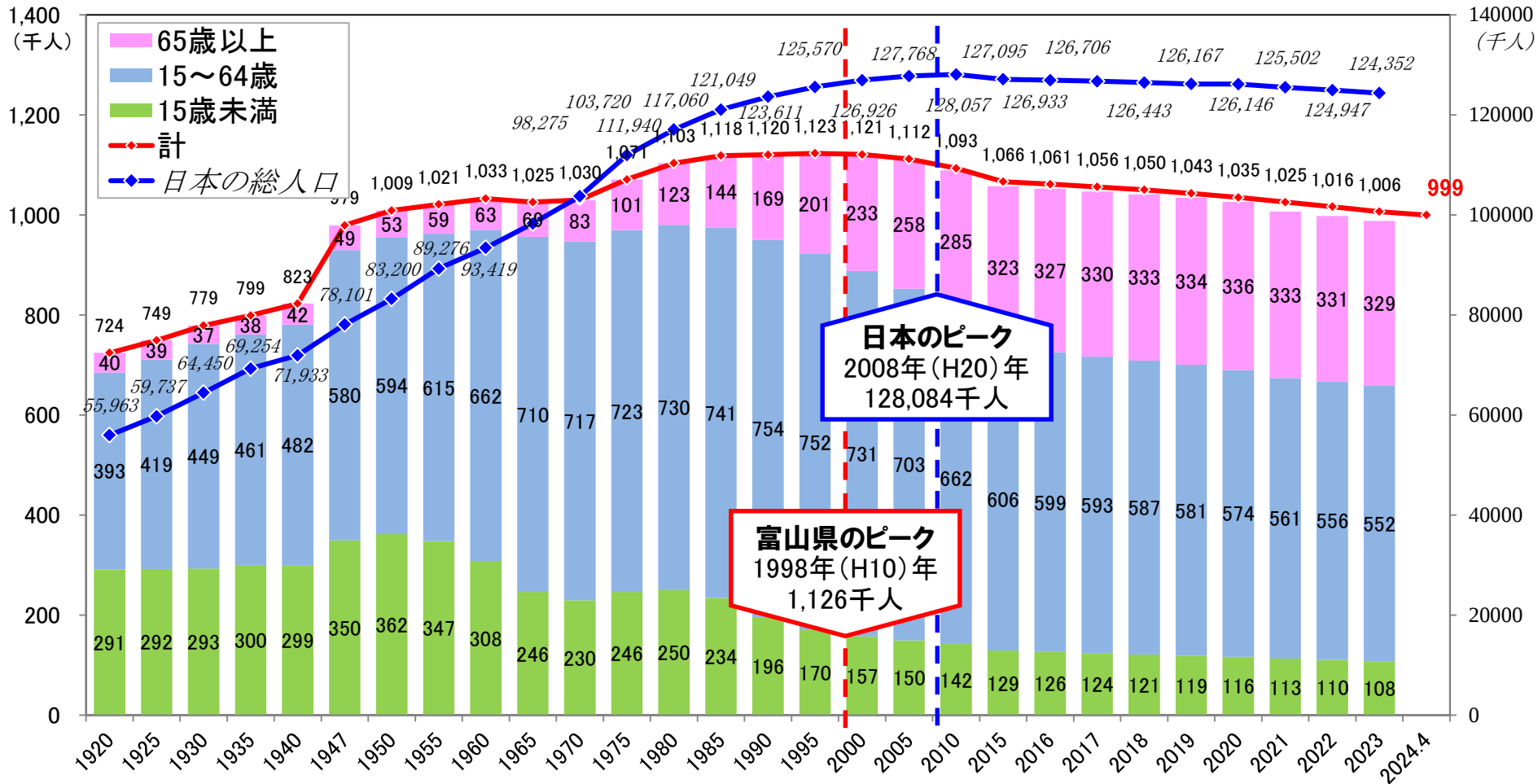


我が国と富山県のこれまでの人口推移

資料1

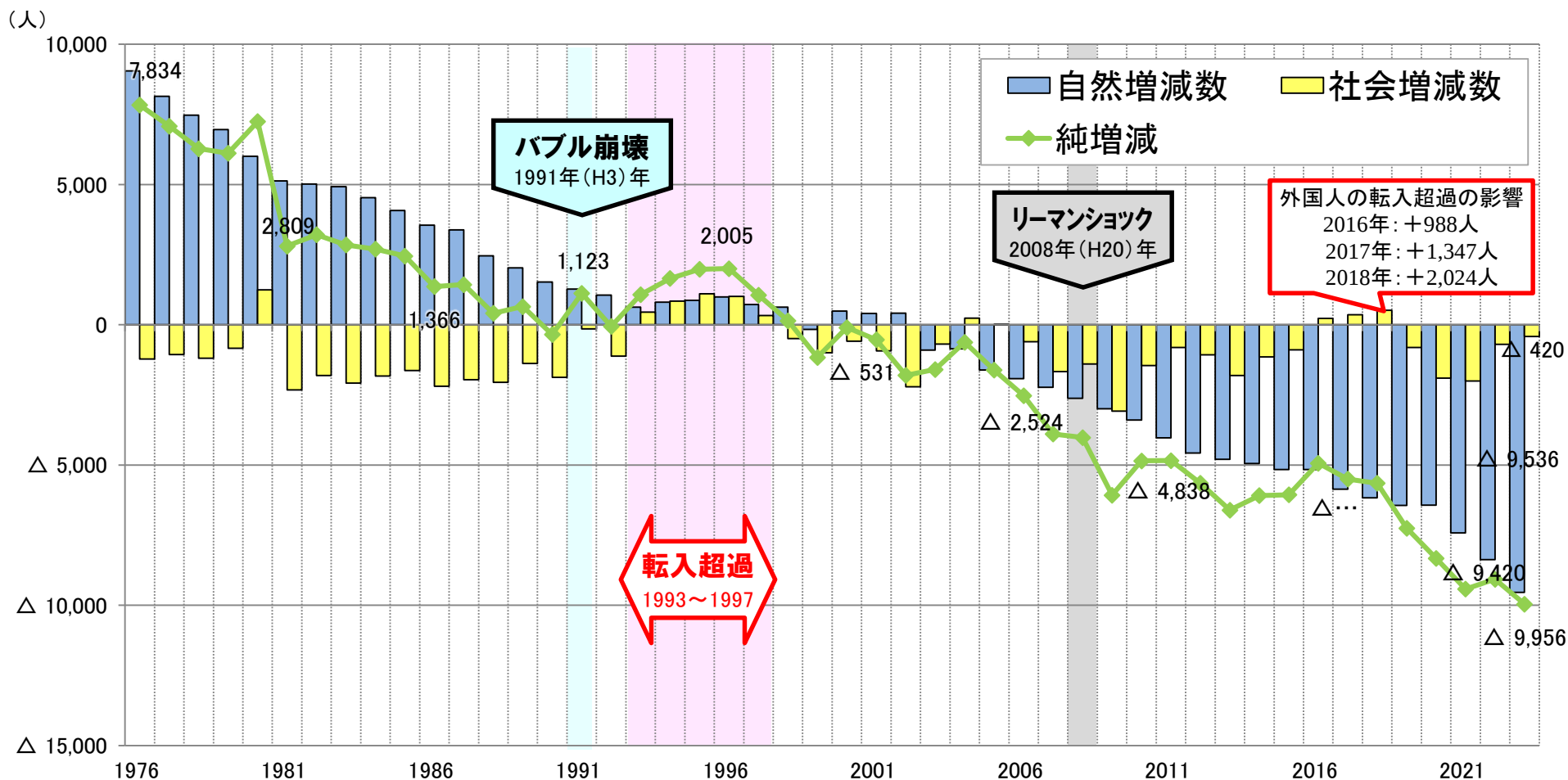
- 富山県の人口は、全国より 10年早い 1998（H10）年をピークに減少に転じる
- 年齢3区分別の人口構成をみると、65歳以上が拡大する一方、15歳未満は減少が続いており、人口構成が変化



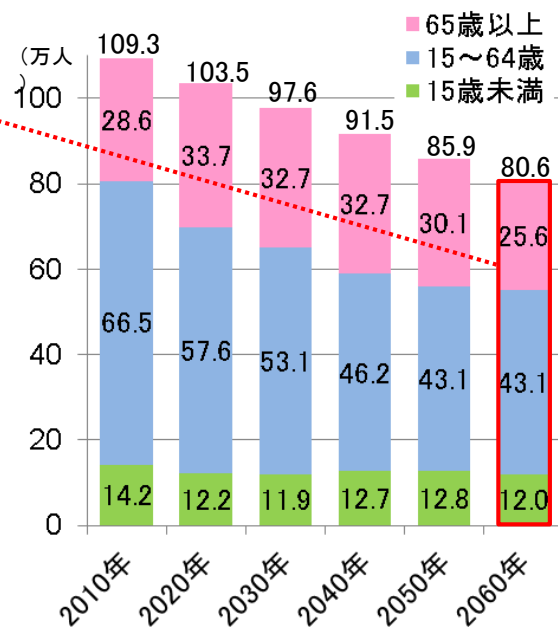
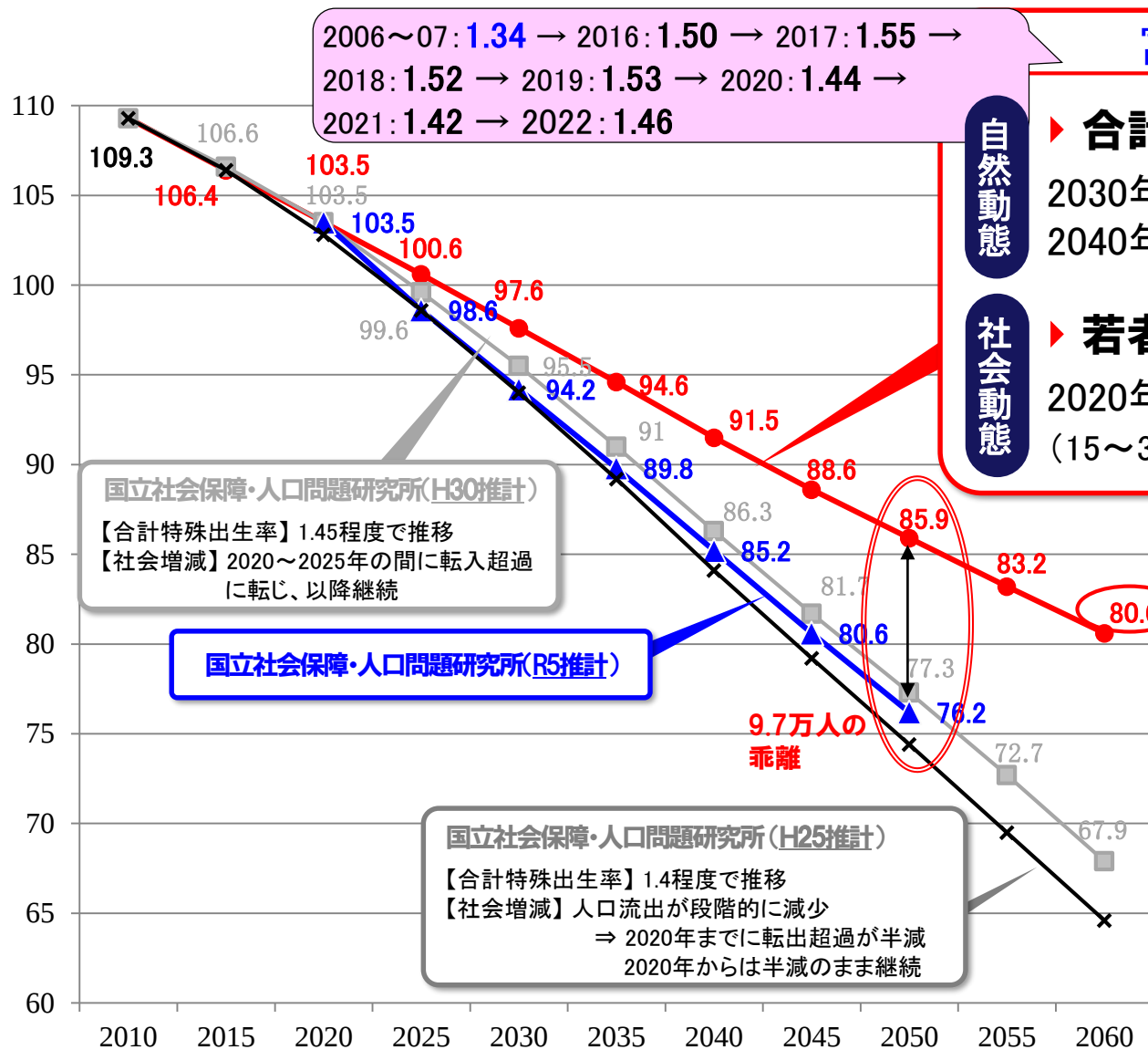
(出典) 総務省統計局「人口推計」、富山県「人口移動調査」(いずれも各年10月1日現在) ※2024.4は4.1現在

富山県の人口動態（自然動態＋社会動態）の推移

- 自然動態（出生－死亡）は、マイナス幅が増加傾向
- 社会動態（転入－転出）は、外国人の移動増加などにより、マイナス幅が縮減するも、2019（R元）年以降はマイナスが続いている状況



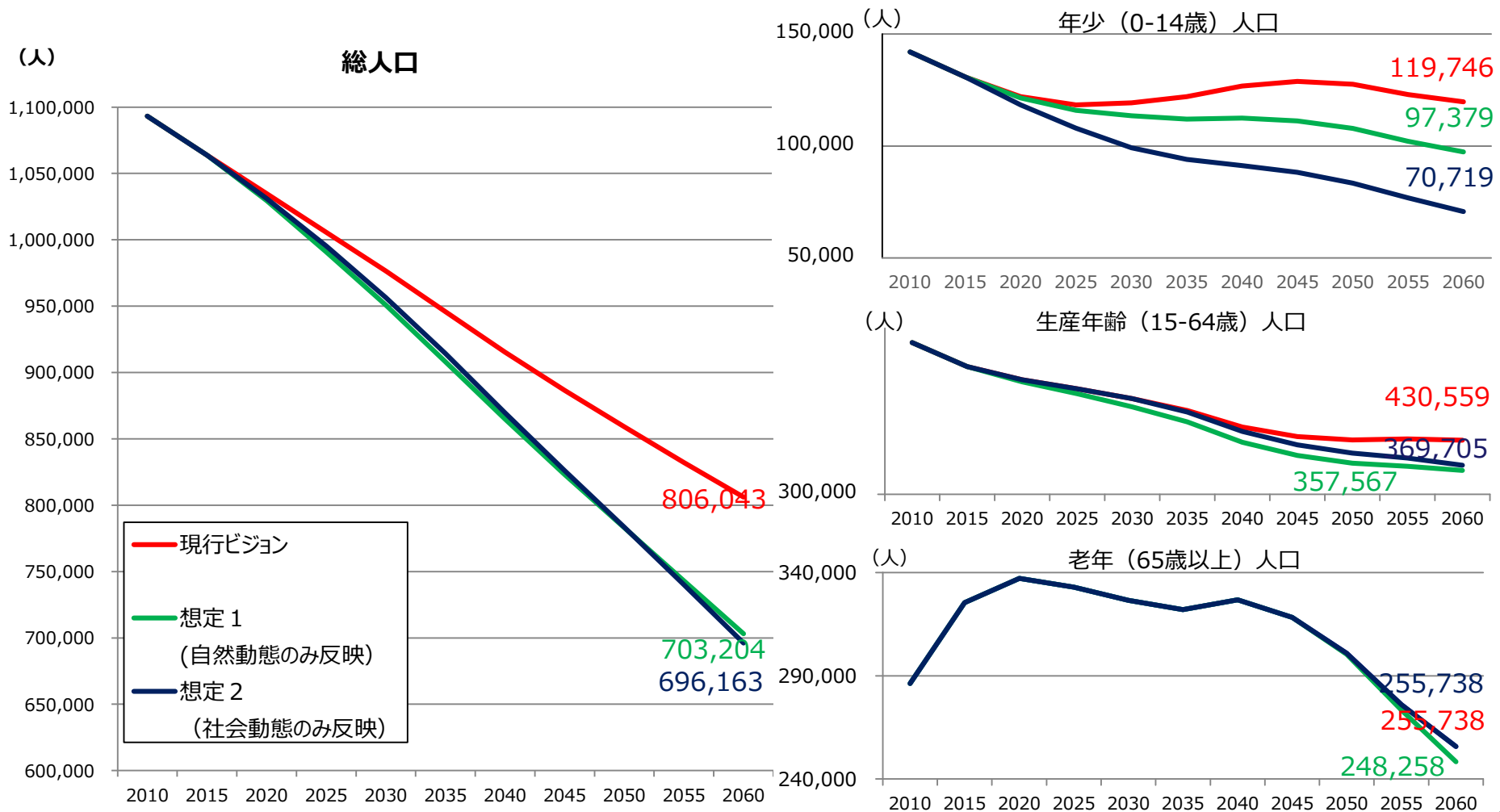
富山県人口の推移と未来へのビジョン ～2060年に総人口80.6万人をめざす～



富山県人口ビジョンを用いた試算①

現行の富山県人口ビジョン（H27推計）と、以下の想定を基に試算した結果を比較

- ・ 現行ビジョン ①自然動態：出生率が2015年に1.45、2030年に1.9、2045年に2.07達成
②社会動態：2020年に15～34歳の転出超過（1,550人）が改善し、以降改善が継続
- ・ 想定 1 : ①自然動態のみ反映、②社会動態は反映せず
- ・ 想定 2 : ①自然動態は反映せず、②社会動態のみ反映

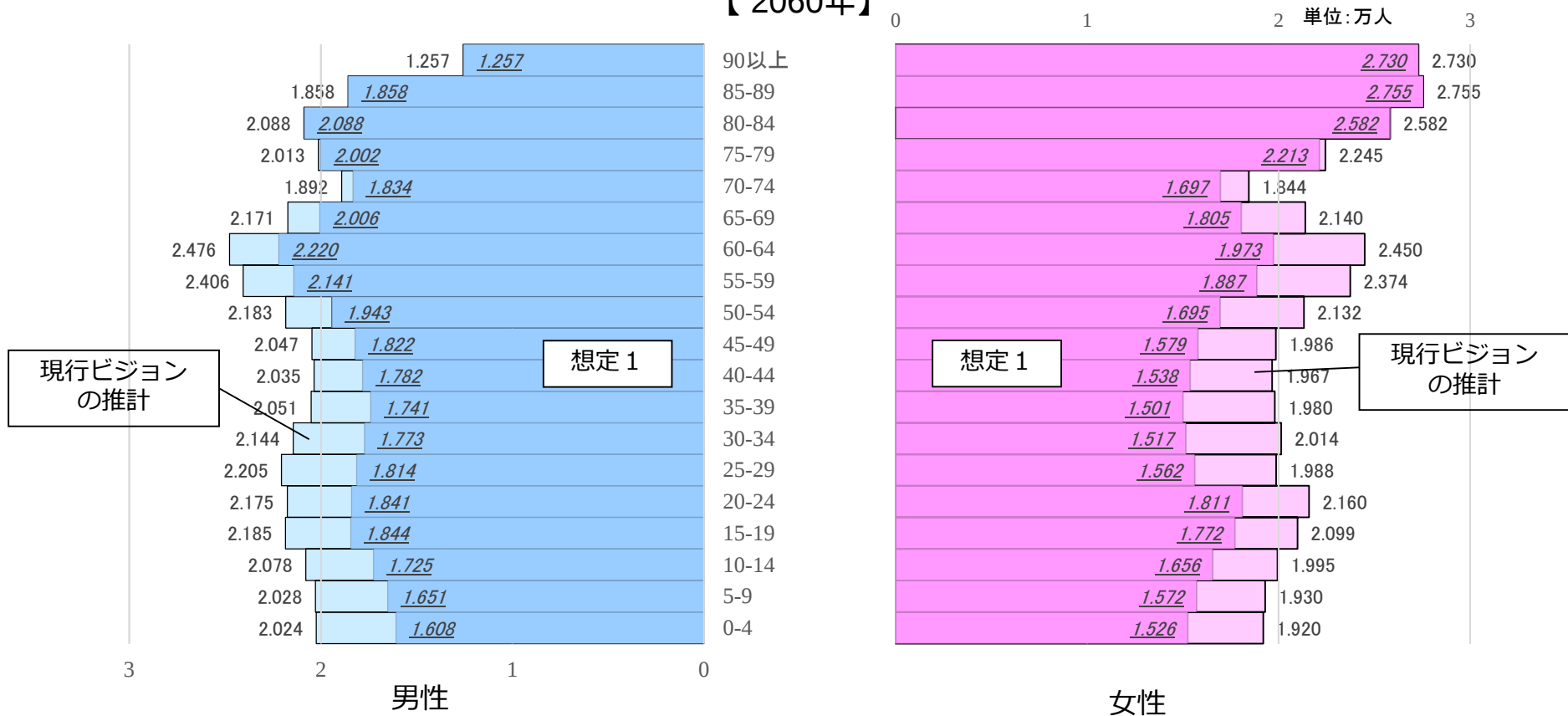


富山県人口ビジョンを用いた試算②

現行の富山県人口ビジョン（H27推計）と、以下の想定を基に試算した結果を比較

- ・現行ビジョン ①自然動態：出生率が2015年に1.45、2030年に1.9、2045年に2.07達成
②社会動態：2020年に15～34歳の転出超過（1,550人）が改善し、以降改善が継続
- ・想定1：①自然動態のみ反映、②社会動態は反映せず

【2060年】

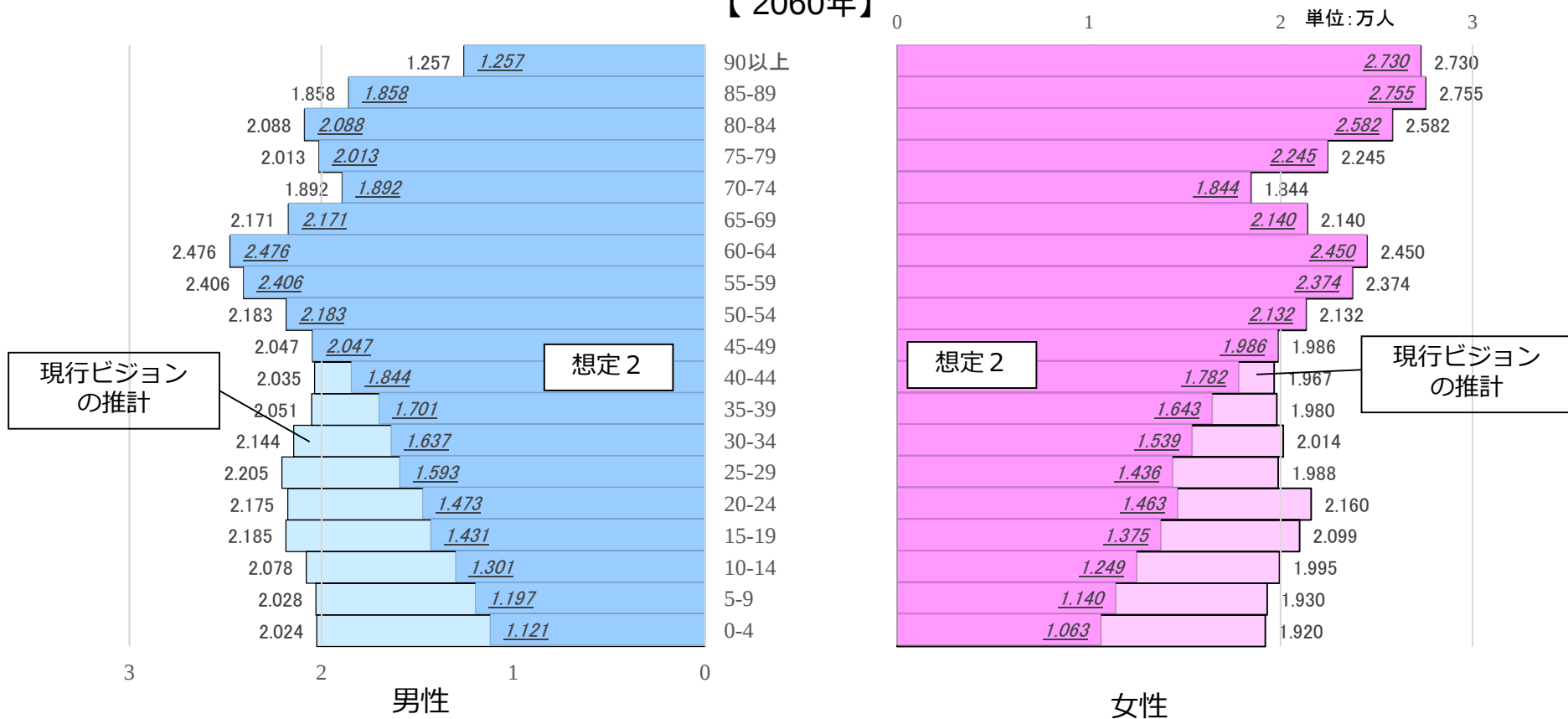


富山県人口ビジョンを用いた試算③

現行の富山県人口ビジョン（H27推計）と、以下の想定を基に試算した結果を比較

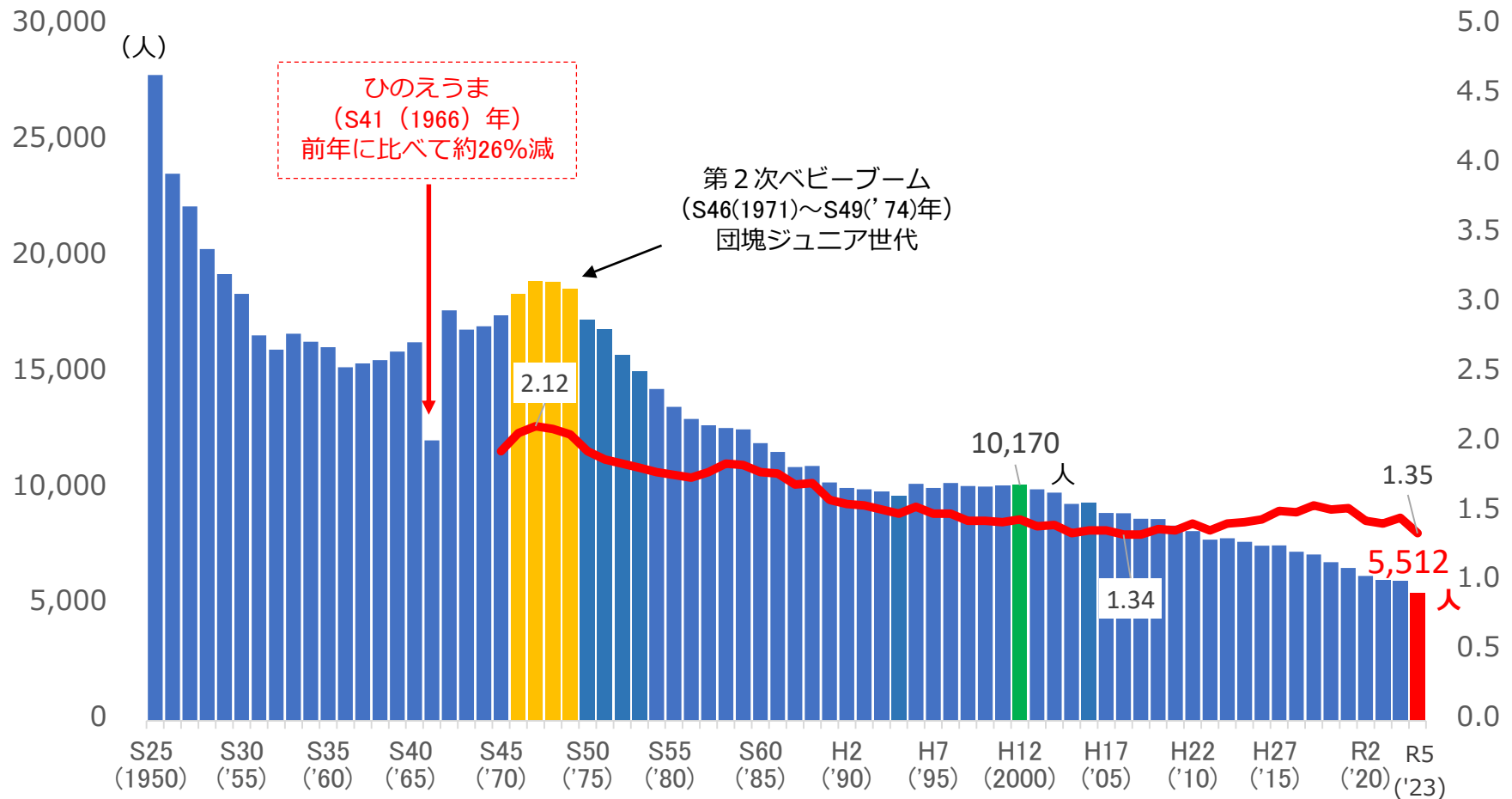
- ・ 現行ビジョン ①自然動態：出生率が2015年に1.45、2030年に1.9、2045年に2.07達成
- ②社会動態：2020年に15～34歳の転出超過（1,550人）が改善し、以降改善が継続
- ・ 想定2 ①自然動態は反映せず、②社会動態のみ反映

【2060年】



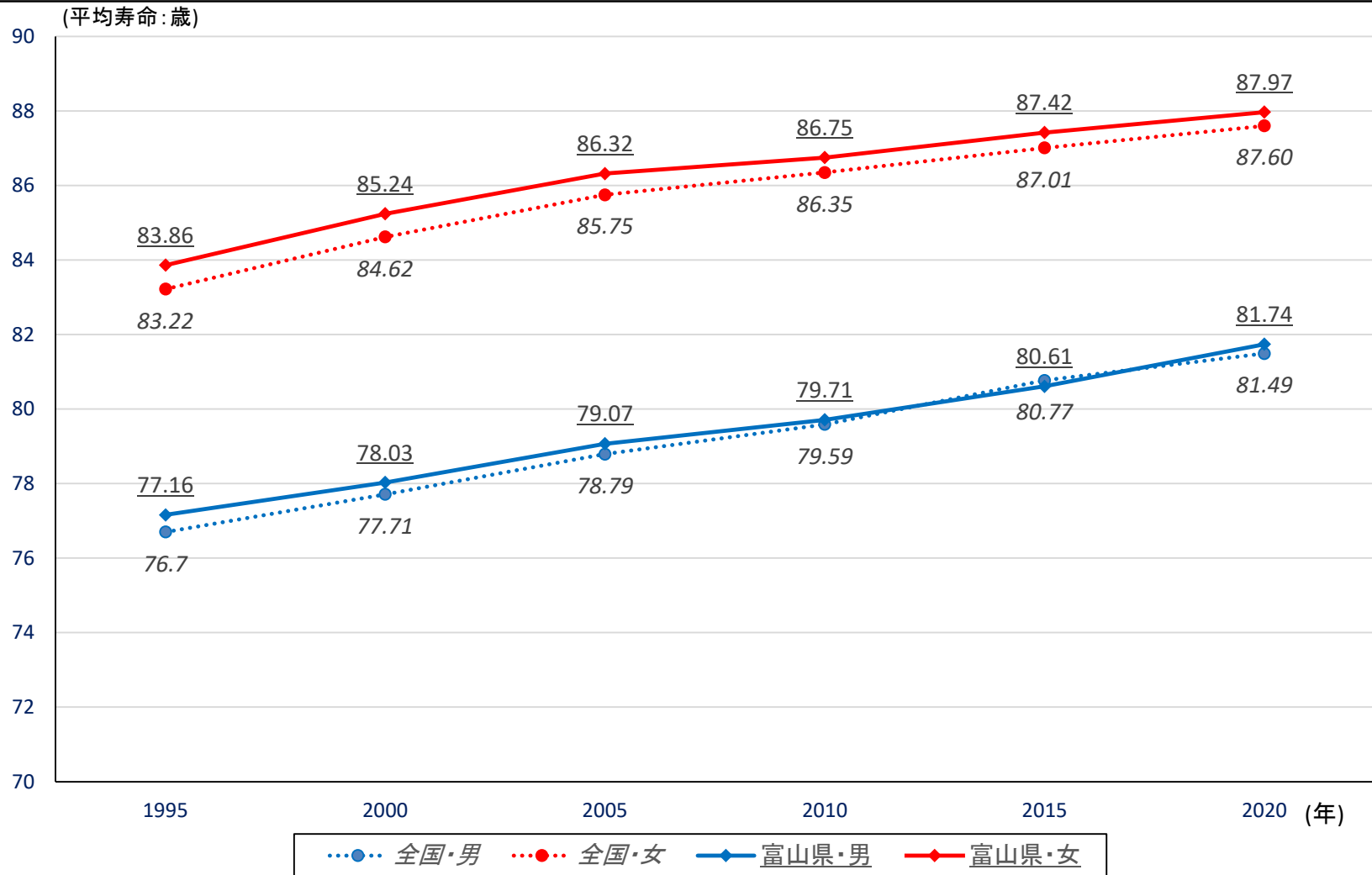
出生数・合計特殊出生率の推移（富山県）

○本県の出生数は年々減少しており、令和5年には5,512人と過去最少となっている。



平均寿命（0歳平均余命）の推移（全国、富山県）

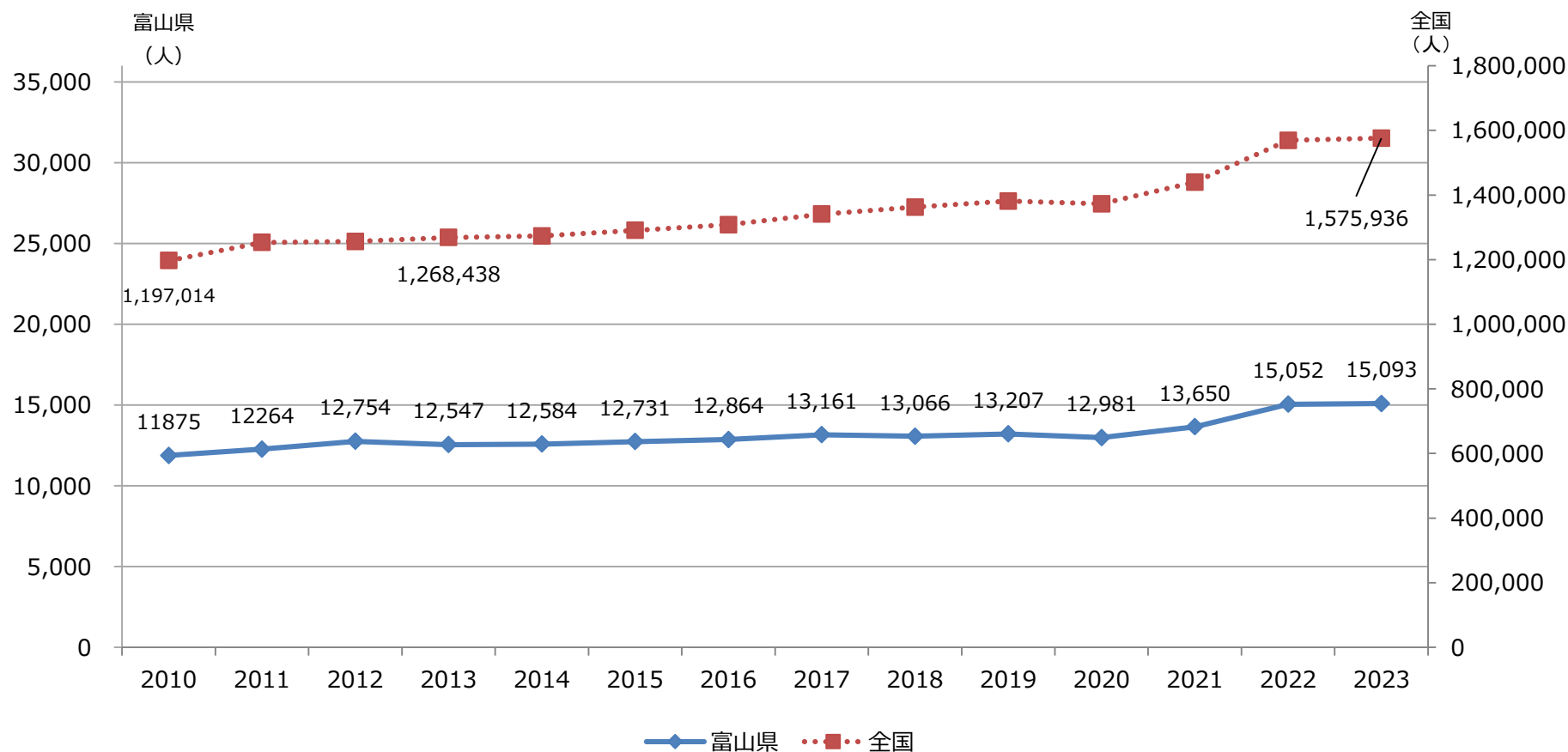
- 平均寿命（0歳平均余命）は、全国、富山県ともに上昇傾向にある。
- 富山県の平均寿命は、男性81.74歳、女性87.97歳で、全国平均よりもやや高い数値となっている。



(出典) 厚生労働省「令和2年都道府県別生命表」

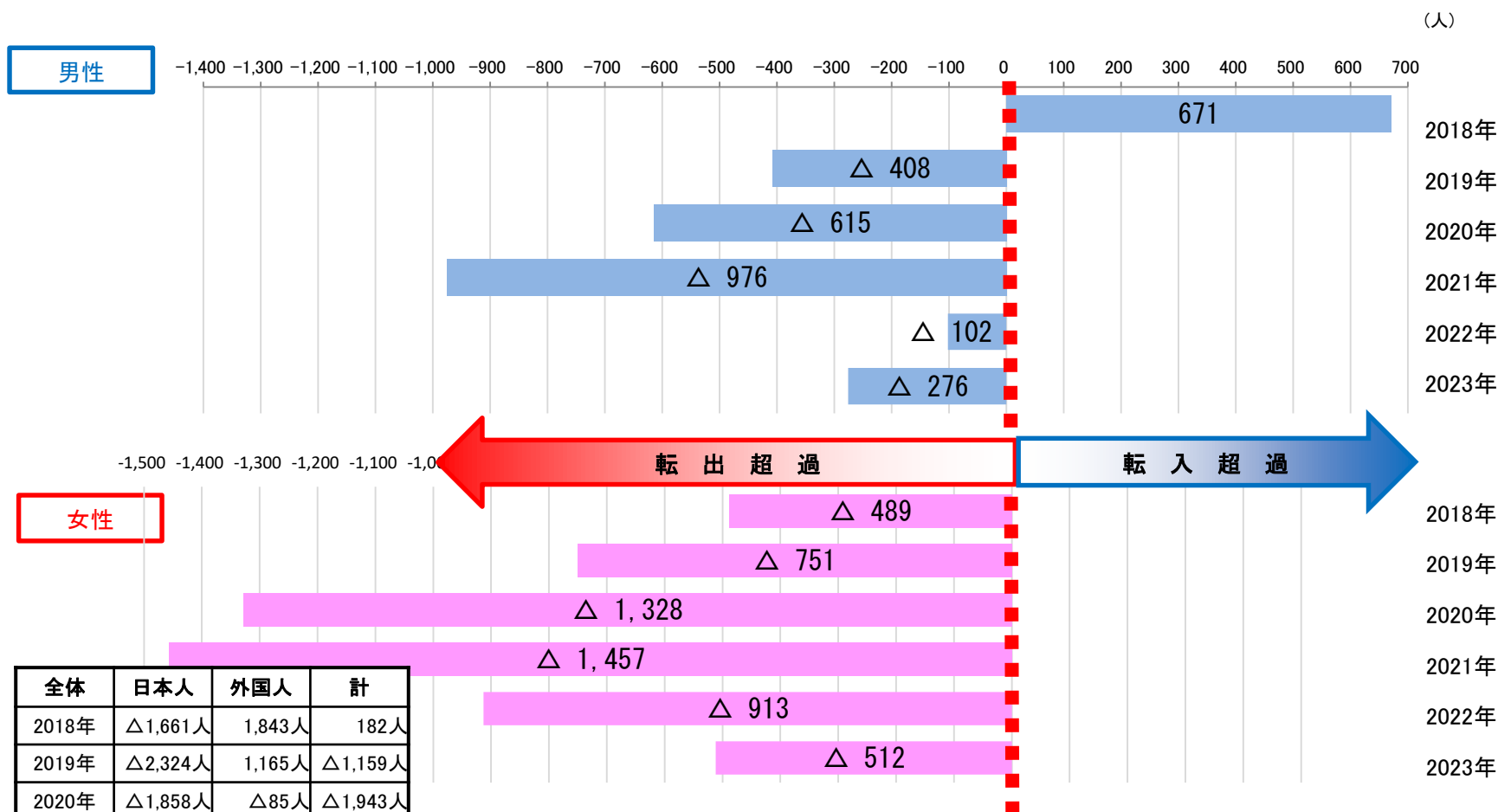
死亡数の推移(全国、富山県)

- 全国の死亡数は増加傾向にあり、10年前の2013年(H26)と比較して、24.2%増加している。
- 本県の死亡数も、全国同様、増加傾向にあり、2013年(H26)と比較して、20.3%(2,546人)増加している。



富山県の15歳～34歳の社会移動の状況（日本人＋外国人）

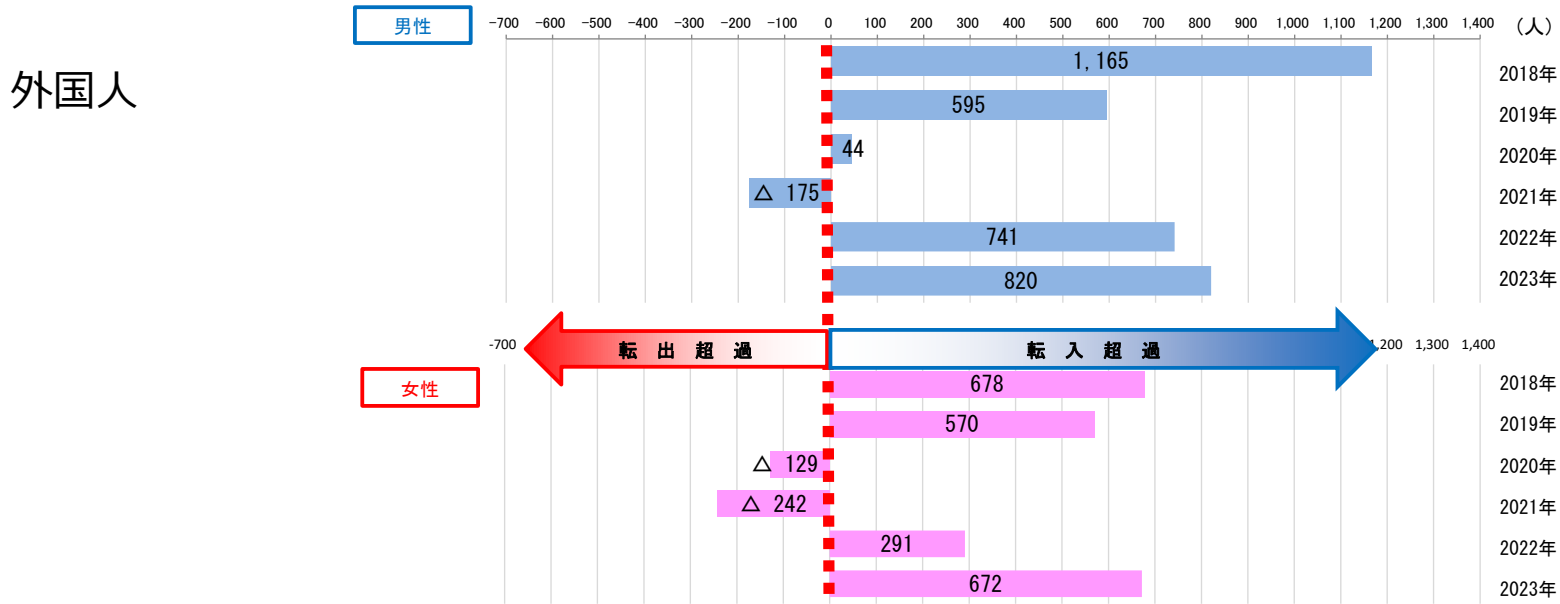
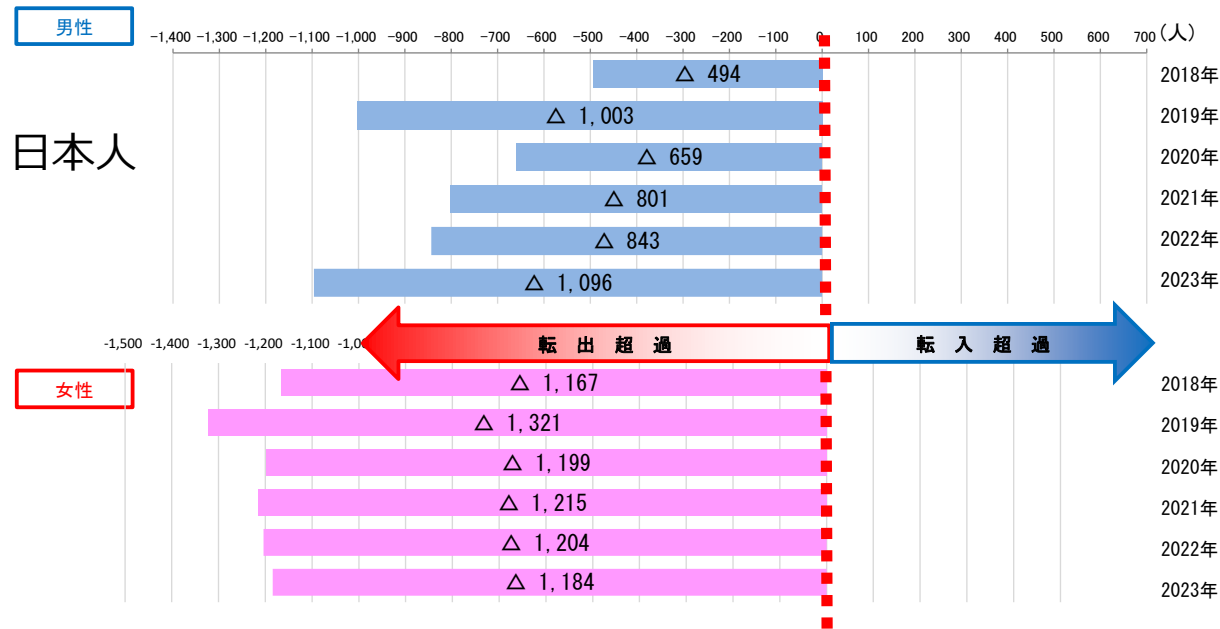
- 富山県の15歳～34歳の社会移動の状況を見ると、2023年は788人の転出超過となっている。
- ここ数年は、増減はしているものの、男性・女性ともに転出超過が継続。



全体	日本人	外国人	計
2018年	△1,661人	1,843人	182人
2019年	△2,324人	1,165人	△1,159人
2020年	△1,858人	△85人	△1,943人
2021年	△2,016人	△417人	△2,433人
2022年	△2,047人	1,032人	△1,015人
2023年	△2,280人	1,492人	△788人

(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日までの社会増減数)

富山県の15歳～34歳の社会移動の状況

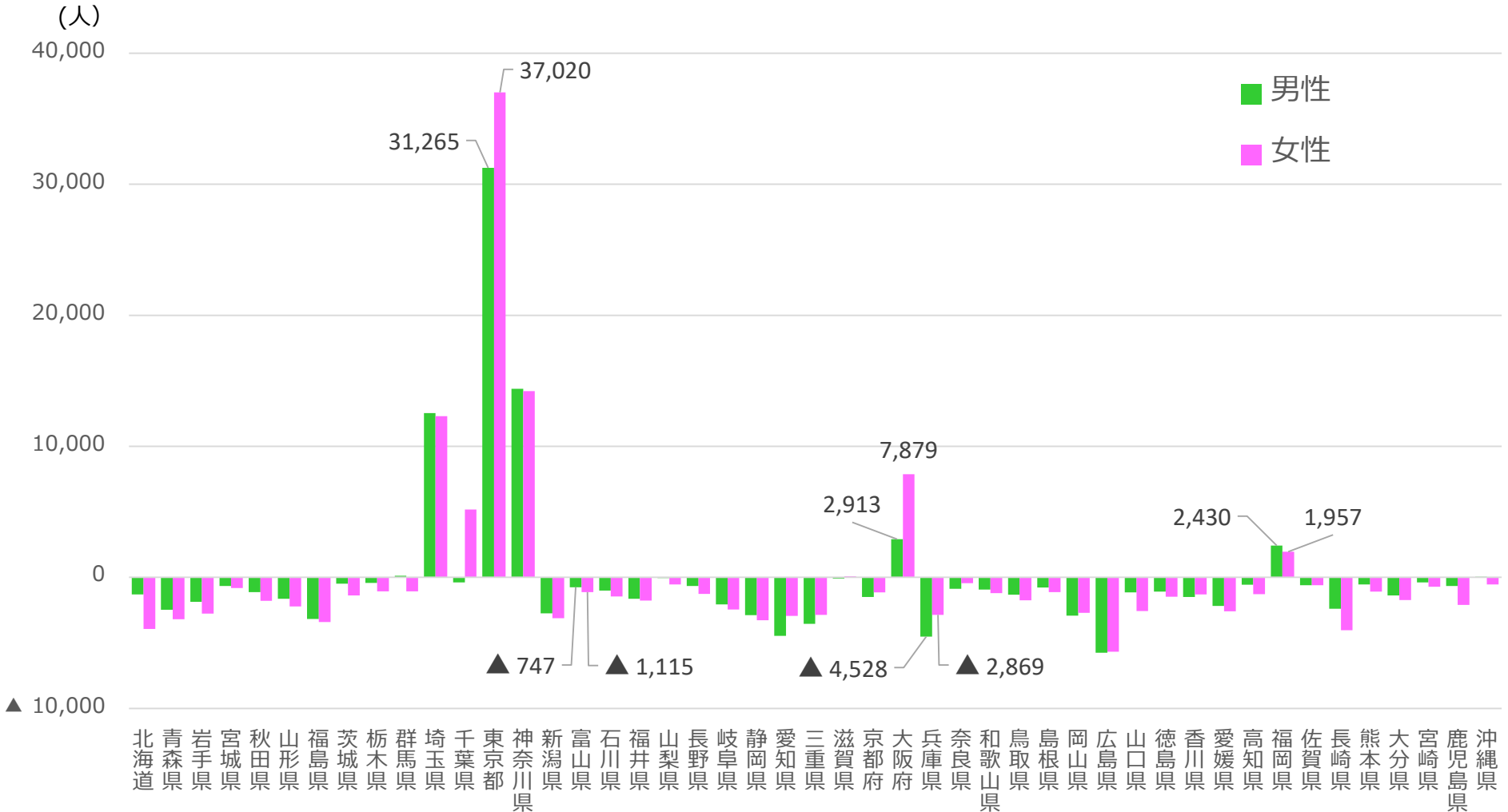


(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日までの社会増減数)

(出典) 富山県「人口移動調査」(前年10月1日～当年9月30日までの社会増減数)

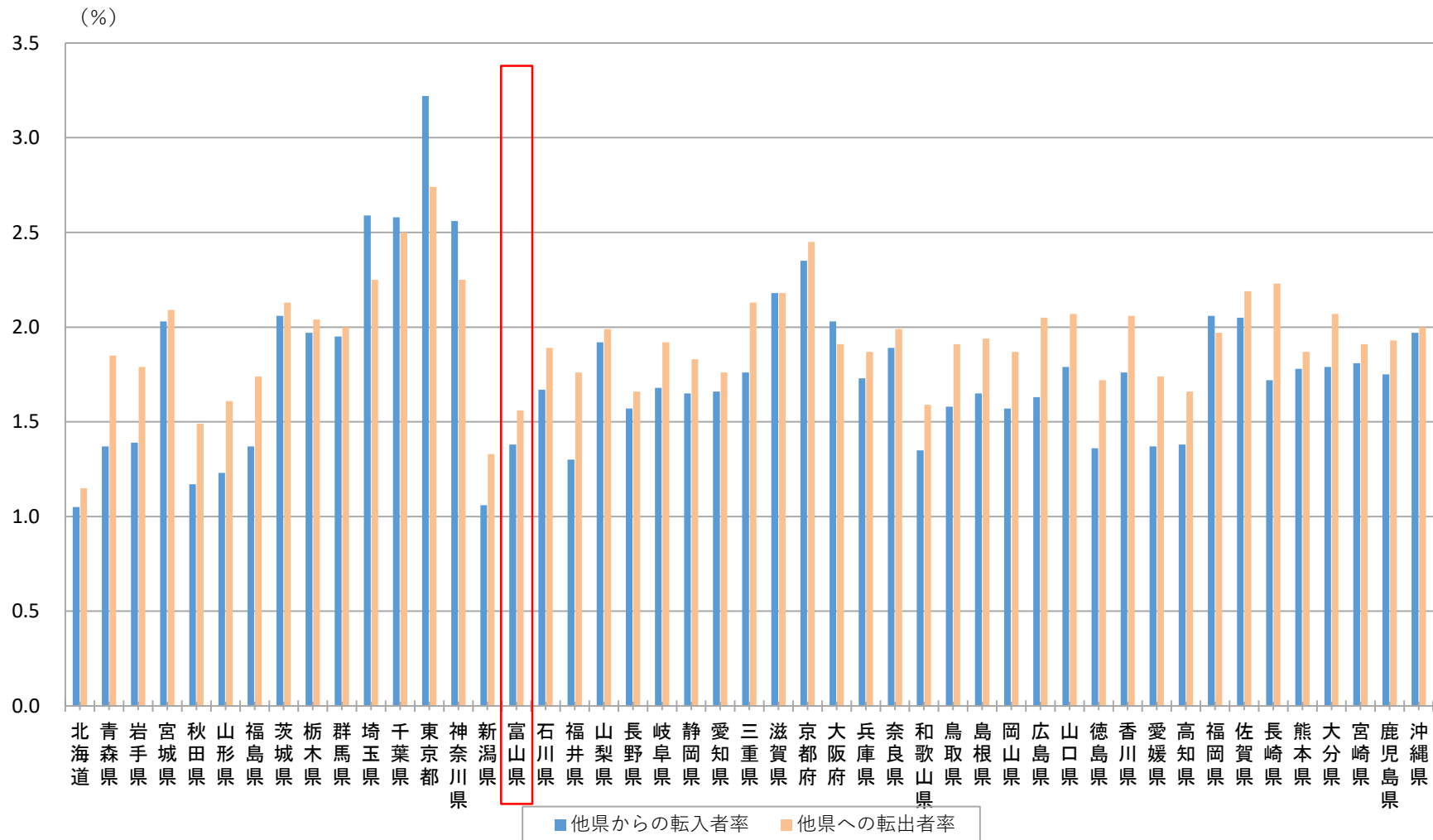
都道府県別転入・転出超過数（2023年）

○全国的に見ると、転出超過となっている道府県が多い一方、首都圏への転入超過が顕著。



都道府県別の転出入者率

○本県の2023年（R5）の移動率は、転入が1.38%、転出が1.56%であり、転入は高い方から36番目、転出は低い方から4番目に位置している。

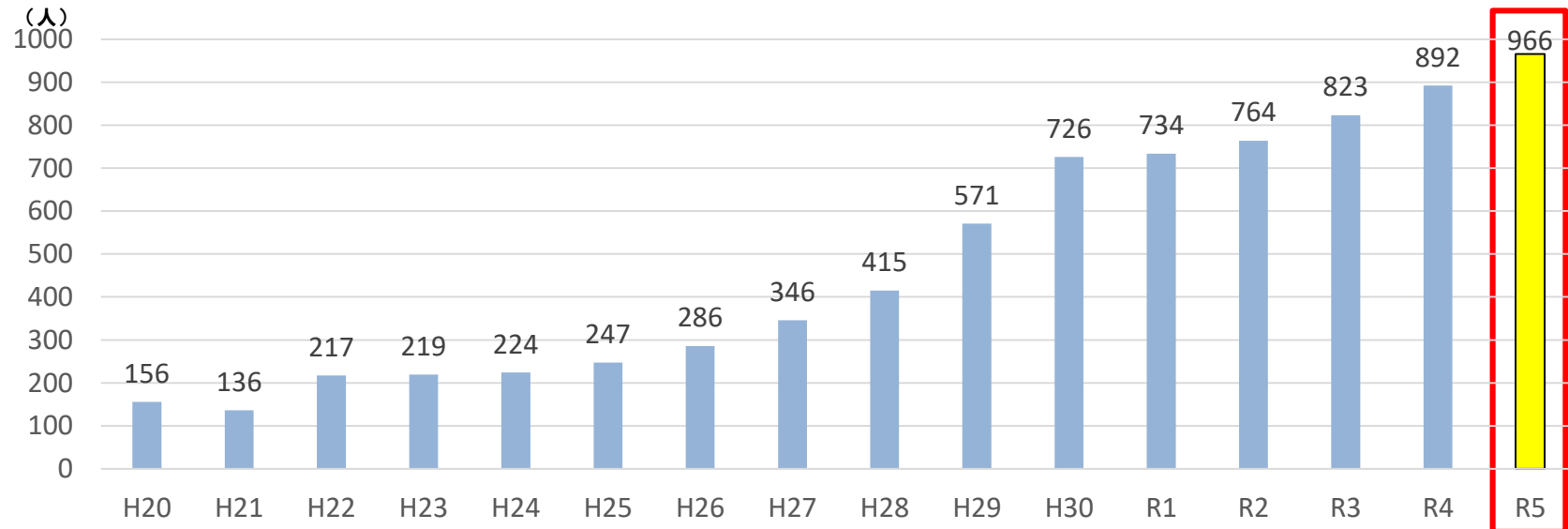


(出典) 総務省「住民基本台帳移動報告」(2023年)

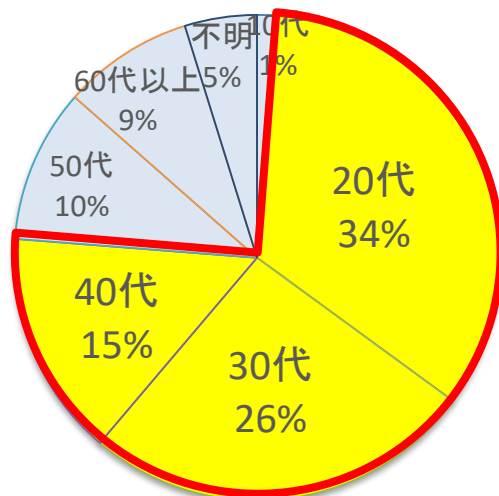
県・市町村の相談窓口等を通した移住者数の推移など

- 県外からの移住者数は年々増加しており、R5年度は過去最高の966名
- 世帯主の年代では、20～40代が439世帯で全体の75.0%
- 移住前居住地では、東京都からの移住者が最多の253名

○ 県・市町村の相談窓口等を通した移住者数の推移



○ 世帯主の年代



○ 移住前居住地（移住者数上位5位）

移住前居住地	移住者数(人)
東京都	253(26.2%)
石川県	153(15.8%)
神奈川県	80(8.3%)
愛知県	74(7.7%)
埼玉県	56(5.8%)

首都圏
(東京, 神奈川, 千葉, 埼玉)
430人(44.5%)

大阪圏
(大阪, 京都, 兵庫)
90人(9.3%)

名古屋圏
(愛知, 三重, 岐阜)
96人(9.9%)